

令和 6 年度日野市平和事業

# 平和派遣事業成果報告書

< 沖縄・長崎・広島 >



日 野 市



## 目次

1	平和派遣事業の趣旨・目的	1
2	平和派遣事業概要	2
3	平和派遣事業報告会	2
4	明星大学学生グループによる被爆アオギリ二世のお話	3
5	被爆アオギリ二世の植樹	3

### ●派遣者発表沖縄

三沢中学校	1年	<small>ささやすみれ</small> 笹谷澄礼さん	5
-------	----	---------------------------------	---

### ●派遣者発表長崎

旭が丘小学校	3年	<small>いとうかずひろ</small> 伊東知洋さん	11
八王子学園八王子中学校	2年	<small>うどうまゆ</small> 有働真結さん	14
豊田小学校	3年	<small>きたむらいつき</small> 北村一貴さん	17
仲田小学校	4年	<small>たけうちゆう</small> 竹内優さん	21
日野第八小学校	3年	<small>まつむらさき</small> 松村咲希さん	26
三沢中学校	3年	<small>やまぐちそら</small> 山口奏空さん	29

## ●派遣者発表広島

日野第二中学校	2年	うつのみやれな 宇都宮怜奈さん	33
日野第二中学校	3年	しょうじはるか 庄司遥さん	37
東京ウエストインター ナショナルスクール	1年	たていしゆう 立石悠さん	42
日野第五小学校	6年	たはらはるき 田原暖希さん	45
来場者アンケート			47
日野市民憲章／日野市核兵器廃絶・平和都市宣言			50

### 1 平和派遣事業の趣旨・目的

平成26年から始まった日野市平和派遣事業は、第二次世界大戦下で多大な戦火に遭った「広島」「長崎」「沖縄」の各所に、市内在住の小中学生及びその保護者を派遣し、平和について学んでいただく事業です。

また、学んでいただいた内容を発信し、広く市民と共有していただくことで、二次的な平和意識の伝播を促進し、日野市民全体への平和意識の啓発を図っています。

## 2 平和派遣事業概要

派遣期間 令和6年7月～8月

派遣先 広島、長崎、沖縄

派遣者 下表のとおり

(発表順、敬称略)

派遣先	派遣児童生徒	保護者
沖縄	笹谷澄礼	笹谷伸江
長崎	伊東知洋	伊東洋輔
	有働真結	有働美奈子
	北村一貴	北村直子
	竹内優	竹内博史
	松村咲希	松村夏子
	山口奏空	山口隆一
広島	宇都宮怜奈	宇都宮宏治
	庄司遥	庄司真史
	立石悠	立石歌奈子
	田原暖希	田原智昭

## 3 平和派遣事業報告会

お集まりいただいた皆様に、派遣された皆様の思いを発表していただきました。発表された生の声に、参加者はそれぞれ平和への思いを馳せました。

日時 令和6年9月8日(日)14時00分から14時45分まで

場所 日野市役所本庁1階市民窓口課前スペース



#### 4 明星大学学生グループによる被爆アオギリ二世のお話

明星大学学生グループが被爆アオギリ二世のお話をしてくれました。お話をしてくれたのは、明星大学人文学部人間社会学科 2 年生の竹峰誠一郎教授のゼミ生です。令和 6 年度日野市平和活動推進補助金を活用し、「広島原爆と被爆樹木を結んで平和実現への道を探る」という団体で現在平和の活動をしています。彼らは、今回の被爆アオギリ二世の植樹に向けて、広島の被爆樹木の関係者へ取材に行き、苗木の「親木」が平和記念公園でどのように守られているか調査をしてきました。

日時 令和 6 年 9 月 8 日(日)15 時 00 分から 15 時 15 分まで  
場所 日野市役所本庁 1 階市民窓口課前スペース  
登壇者 明星大学人文学部人間社会学科 2 年藤崎直音、金窪亮佑



#### 5 被爆アオギリ二世の植樹

令和 6 年 9 月 8 日(日曜日)、被爆アオギリ二世の植樹を行いました。これから日野市では、広島市から授かった被爆アオギリ二世を大切に育てていきます。市民の皆様も被爆アオギリ二世を身近に見ることで、広島の被爆アオギリに思いを馳せ、核兵器廃絶と世界恒久平和の願いをかけていただきたく存じます。



# ● 派遣者発表《沖繩》



1 三沢中学校

1年

ささやすみれ

笹谷澄礼さん

私は、平和派遣事業で沖縄へ行き、戦時中の沖縄について学びました。2つの施設を訪れ、当時の様子を自分で体験してきました。

はじめに訪れた施設は、豊美城市（とよみぐすくし）にある、「旧海軍司令部壕」です。この施設



は、米軍の強烈な艦砲射撃を避けるため、地下に壕を掘って生活をしてきた日本海軍について学べます。

壕内は様々な部屋があり、私がその中でも印象に残っているのは「幕僚室」です。この部屋では、当時の日本



海軍が自決をした時の手りゅう弾の跡がくっきりと残されていました。部屋の中に数えきれないほどの手りゅう弾の飛び散った跡が残されていました。そのことから、「多くの日本海軍がこの中で自

決をした」ということが分かりました。そして、「自決をしてしまうほど、苦しい状況だった」ということを考えました。この壕には、トイレや炊事場などがなかったため、外に出て排泄をしたり、井戸で水を汲んできて、炊事を行ったりしました。戦争が激しくなってくると、外に出ることもできなくなり、壕の中で排泄をしたりしました。そのため、臭いが充満し、不衛生な環境になり、井戸に水を汲みに外へ行っても、二度と帰ってこない兵士もいました。自決の理由は、このような苦しい状況も関係していると思います。「苦しいよりも死んでいた方がいい」という思いで自決をした人もいたのではないかと思います。また、資料館に展示してある写真には、「米軍に救出された女性」や、「米軍の持っているカメラを不思議そうに見つめる日本人の子供」の写真がありました。「自分の敵国である日本なのに、なぜ、助けるのだろう」と思いました。そこで、私は、米軍の戦争の暮らしも苦しく、「本当は戦争をしたくない」という思いがあったのではないかと考えました。また、「カメラを見つめる子供」に対して、米軍の兵士は、笑顔になっていました。米軍も、争うのではなく、日本と良好な関係でいたかったた

め、日本人を助けたり、「仲良くしよう」と笑顔になったりしたのではないかと思います。

次に訪れたのは、糸満市にある「ひめゆりの塔」です。ここでは、沖縄の女学校に通う女子生徒で構成された、「ひめゆり学徒隊」の戦時中の様子について学ぶことができました。資料館の最初のほうは、友達と笑顔で写っている写真、運



動会の写真が見られました。戦争は苦しく悲惨なことです、戦時中とは思えなく、今の私の学校生活と似ていて驚きました。他にも、部活動での写真や、学徒隊全員での集合写真がありました。資料館を奥に進むと、先程の楽しい雰囲気と打って変わって、苦しい戦争の中でのひめゆり学徒隊の様子展示がありました。戦争が少しずつ激しくなっている様子が伝わってきました。また、さらに進むほど、写真の展示が少なく、戦争が激しくなって、写真を撮ることができないほど、過酷な日々だったのではないかと思います。ひめゆり学徒隊の生徒が当時使っていた持ち物の展示もありましたが、その中で、「くし」の展示がありました。ました。この「く

し」は、「戦争が激しくなってくる戦争が激しくなってくるにつれて、使う暇がなく、久しぶりに髪をとかすと、シラミが落ちてきた」と書かれていました。くしで髪をとかす時間さえもないほど、ひめゆり学徒隊も忙しい日々を送っていたということが分かりました。また、それによって「シラミが落ちてくる」などの身体への影響もあったということが分かりました。忙しく、身だしなみを整える時間などもなく、友達と話すこともできない日々が続いていて、とても苦しいものだったと思います。

私は、今回の沖縄の視察に行くことができ、大変良い経験になったと思います。写真で見るだけではなく、実際に戦争があった場所として自分の肌で感じるのとでは大きな違いがありました。

今回の視察で思ったことは、「当たり前」についてです。今の私たちは、学校に行けて、生活が送れていることが「当たり前」です。しかし、戦時中は、今の私たちの「当たり前」が、「当たり前」ではありませんでした。戦時中に生きていた人は、幸せな生活を犠牲にして、苦しんで生活をしていて、今の私たちの「当たり前」というものが、願いだっただのではないかと思います。今と過去は大きく変化していて、大きな違いがあります。その違いを感じる

ため、「自分たちとは離れたこと、関係ないこと」と思ってしまいがちです。しかし実際に過去このような苦しいことを経験していたのが、自分と近い年齢の人だったと考えると、決して関係ないことは考えられません。戦時中の人達のことを考えて、もう一度「当たり前」について考えると、私たちの「当たり前」は、本当に幸せなことだと言えます。日々の行動に感謝して、心の中に戦時中に生きていた人のことを忘れないように残していくことが大切だと思いました。

# ● 派遣者発表「長崎」



2 旭が丘小学校

3 年

いとうかずひろ

伊東知洋さん

長崎は広島に続いて、二発目の原爆が投下されました。そして、市内にいた27万人が一瞬で被爆してしまいました。無差別で殺されました。

長崎に着いて最初に行ったのは平和公園です。公園には平和の鐘や有名な平和祈念像がありました。天を指す右手は原爆の脅威を、水平に伸ばした左手は平和を表し、閉じたまぶたは原爆犠牲者の冥福を祈っています。



平和公園近くの爆心地には、中心地碑がありました。そこで、僕は目を閉じて思いました。原爆投下の瞬間、長崎にい



た人たちはどんなに怖かったのだろうか。恐怖や悲しみ、痛みなど、どうして、その苦しみを受けなければいけないのか。これ以上は言葉で言い表せません。実際、その場所に行った人しか分からな

い思いや気持ちがあります。僕は多くの人に伝えたいです。長崎に行ったことのない人は、一度長崎の爆心地に行って、目を閉じてください。そして、亡くなった方々への祈りをしてください。

次に、爆心地から 800m 離れた山王神社に行きました。山王神社は、爆風で折れた鳥居が、一本で立っており残った部分には熱線の跡が当時の



まま残っています。境内には、樹齢 500 年と言われる 2 本のクスノキがあります。そのクスノキは枝が焦げ、爆風で折れて誰もが枯れたと思いましたが、2 か月後の 10 月に新芽を吹き始め、やがて元通りに大きく茂りました。原爆から生き残った長崎の人たちの明るい希望となりました。

最後に僕が今回学んだことは、「戦争はしない」「核兵器を使うことは長崎で最後にしなければならない」ことです。それが、長崎で被爆した人達の思いでもあり、願いです。僕が長崎で感



じたことや出来事は友達や多くの人たちにも伝えていきます。大浦天主堂でお会いした修道女の方からもあなたの使命は長崎で感じたことを多くの人に伝えることとおっしゃっていました。

そして、将来、自分の子どもが出来た時もこのことを必ず語り継いでいきます。これが、僕の使命だと思っています。



3 八王子学園八王子中学校 2年 うどうまゆ  
有働真結さん

長崎での原爆関連施設の見学の中から、特に心に残った場所を紹介  
します。

【原爆資料館】

原爆資料館では、  
ボランティアガイド  
の田中さんと一緒に  
館内を周った。まず  
私達は、有名な 11



時 02 分に止まった時計を見た。時計を破壊した原爆に怖さを感じ、それと同時になぜアメリカはそこまで強い威力のものを日本に落とすことにしたのか、落とすことができたのか、とても不思議だった。

【平和公園】

小高い丘の上に公園があり、  
2つの噴水の間から「平和祈念  
像」が見えた。とても幻想的だ  
ったけど少し怖かった。噴水の



前に被爆した子供の文章があった。「喉が渴いてたまりませんでした。水には油のようなものが一面に浮いていました。どうしても水が欲しくて、とうとう油が浮いたまま飲みました。」その話が凄くリアルで、こんなに酷いことを小さな子供にもさせてしまって戦争は本当に嫌だと思った。平和祈念像には、すごく圧倒された。なんとも言えない表情と、力強い体で本当に酷いことがあったんだよ。と訴えているように感じた。

### 【山王神社のクスノキ】

おおきくて壮大だった。原爆にあったことを感じさせないようだったけれどたしかに原爆にあってそこからずっと見守ってるのだなぁと感じた。少し安心して少し不思議だった。山王神社に着いたとき、上からたくさんのかわ



いい緑色の小さな実が降ってきた。クスノキの実は、神社の社の屋根根にいくつもいくつもポツンポツンと落ちて、何かの音楽のリズムを刻んでいるようだった。現在、山王神社のすぐ隣には、保育園が建っていて、参拝時ちょうど園児たちの登園時間で、かわいい笑い

声や、朝の会のおうたの声が聞こえてきて、平和を実感した原爆遺産だった。

### 【まとめ】

私は、なぜ日野市が被爆したわけではないのに核兵器廃絶・平和都市宣言や、平和派遣事業を行っているのか、という疑問があった。私は長崎に行って原爆についてとても身近に感じた。戦争はもう嫌だと強く思った。それを感じてほしかったから平和派遣を行い、核兵器廃絶・平和都市宣言をしたのだとわかった。私は、原子爆弾の威力とその犠牲の大きさを知らなかったので、昔のことは私たちには関係ないのかなと思っていた。でも、今度の見学で、原爆の恐ろしさをこれからずっと忘れないように、過ちはもうくり返さないようにいろいろな方法で伝えていくことが大切だと思った。そして私も、その気持ちを忘れずに、日々を過していきたい。

#### 4 豊田小学校

3年

きたむらいつき  
北村一貴さん

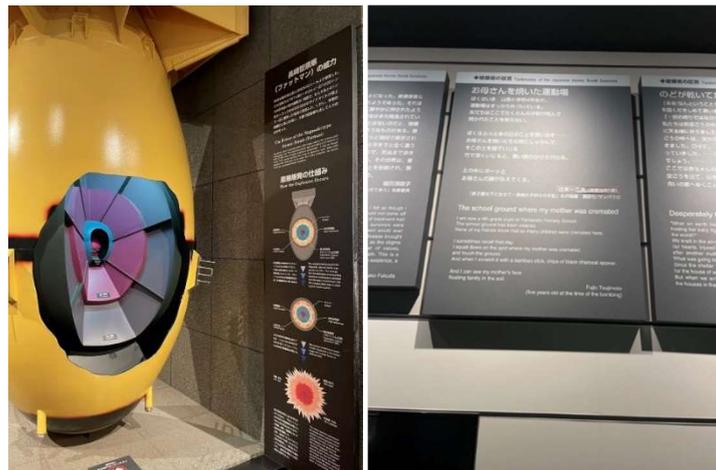
今回の派遣事業で、ぼくは初めて長崎へ行きました。長崎はとても美しく、すてきな街でした。しかし、79年前にひとつの原子爆弾



により大きな被害を受け、多くの方が命を落としました。

長崎で起きた悲慘な出来事を知るため、原爆資料館、原爆落下中心地、平和公園をまわりました。

79年前の1945年  
8月9日午前11時0  
2分、日本と戦争をして  
いたアメリカのB-  
29という爆撃機がひ  
とつの原子爆弾を長崎



に落としました。この原子爆弾により7万人が亡くなり、およそ7万5千人が負傷しました。

原子爆弾が爆発すると火の玉ができ、熱線と放射線が出され、その熱であたためられた空気はものすごい勢いでふくらみ、はげしい爆風が起きるそうです。長崎の町は、原子爆弾で爆心地を中心に半径2キロにもおよぶ地域が一瞬で焼け野原になり、建物だけでなく、人も鳥や動物もあらゆる生き物が消えてしまいました。人間が一瞬にして姿を消してしまうというのが原子爆弾の恐ろしさです。

原爆資料館には、被爆した人たちの着ていた真っ黒に焼け破れた洋服、熱で折れ曲がったものや、溶けた屋根瓦、原爆投下の時刻で止まったままの時計などが展示されていて、原子爆弾の威力の大きさ、悲惨さがわかりました。

原子爆弾の模型もあり、こんな小さな一つの爆弾がこれだけの被害を出す核兵器であったのだと知りました。お母さんを亡くした小学生の体験記を読み、大切な家族を失ったこどもの気持ちを想うととても悲しくなりました。

平和公園の平和の泉には「のどが  
渴いてたまりませんでした、どう  
しても欲しくて油の浮いたままの  
水を飲んだ」というある少女の手  
記がありました。

ぼくが長崎を訪れたのは8月上旬  
の最高気温が37度を超えるとも  
暑い日でした。家族といっしょ

に長崎の市内を歩いてまわりましたが、原爆が投下された79年  
前、ここを大きな火傷や傷を負って苦しみもがきながら歩いた人  
や、家族を心配し一生けん命探して歩いた人、のどが渴いてたまら  
なかった人がどんな気持ちだったのだろうと考えるとたまらなく胸  
が苦しくなりました。



いまでも世界には戦争をしている国があります。また多くの核兵器が存在することも知り



ました。核を持っている国は、核兵器があるから自分たちの国が守られていると考えています。

本当にそうなのでしょう。戦争や核兵器で人の命を奪う権利などだれにもないのだとぼくは思います。

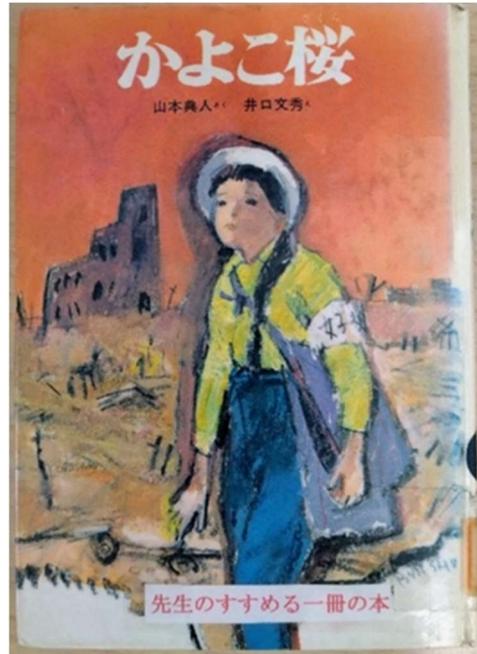
原爆資料館を見学し、被爆者の声を聞き、平和の尊さと命の重みという言葉の意味を知りました。ぼくは、この派遣事業で知った戦争の悲惨さや核兵器の恐ろしさを忘れません。そして、長崎を最後の被爆地にするため、二度と原爆で悲しみ、苦しむ人をつくらないために、ぼくたちひとりひとりが、いまでも未来もずっと、真剣に考え責任ある行動をすることが大切だと思いました。

5 仲田小学校

4年

たけうちゅう  
竹内優さん

私は仲田小の先生がすいせんしてく  
れた「かよこ桜」を読み、長崎に学び  
に行きました。これは、高校1年生の  
かよこさんが被爆し、生き残ったお母  
さんがたましいをなぐさめるために、  
被爆地の城山国民学校（城山小学校）  
に桜を植えたお話です。私は、かよこ



さんの亡くなり方がひどく、それを見た家族もかわいそうに感じま  
した。そして、「どうしてかよこさんを見つけるのに22日もかかっ  
たのか」「なぜかよこさんを、見つけた時、かよこさんの下半身は  
吹き飛んで無くなっていたのか」「なぜお母さんは長年悲しまれて  
いたのか」この3つのことが知りたくて、長崎へ行きました。

1、どうしてかよこさんを見つけるのに22日もかかったのか

長崎原爆資料館で、原子爆弾で亡くなった原因は、①熱線②ばく  
風③放射線の3つと知りました。

①熱線

いっしゅんでもものすごい高温になるので、ビンがどろどろに溶けていました。人の皮ふは、真っ赤にむけていました。お弁当のお米はいっしゅんでこげて炭になり、人間は、おどろいたような顔のまま、口を開けて、真っ黒にこげ、さらに皮ふがふくれあがって、男女の区別がつかない人の写真がたくさんありました。

### ②ばく風

割れたガラスが、コンクリートにつきささり、固まっていた。100のガラスが背中にささった先生のお話がありました。

### ③放射線

数日後、体の中の血が止まらなかったり、弱って死んでいく人の話がありました。

これらから、原爆投下の日、お母さんがかよこさんを探しに城山国民学校に行っても、校舎が熱くて近寄れず、探せなかった理由が分かりました。別の日も探しましたが、亡くなっている人の中から、かよこさんを顔で探すことが出来ない理由が分かりました。

2、なぜかよこさんを、見つけた時、かよこさんの下半身は吹き飛んで無くなっていたのか

私は爆心地から城山小学校へ歩きました。学校は爆心地から 500 Mで、私の足で 7 分 30 秒の近い場所にありました。おどろいたのは、半分も歩いてない所から、丘の上にあるこの学校は、爆心地を向いて丸見えでした。

この場所だと、強れつな①熱線②ばく風③放射線を受けているな、体が切れてしまうな、かよこさんは痛かっただろうなと感じました。

3、なぜお母さんは長年悲しまれていたのか

城山小学校で「城山小学校被爆校舎平和発信協議会」の三田村さんにお話を聞きました。かよこさんのお母さんとも交流があった方で、「わたしも被爆者なんです」とおっしゃっていました。

原爆の朝、武器工場になっている学校に行きたくないと言っていたかよこさんを「元気を出して」とお母さんは送り出したので、「行かせなければよかった」と自分を責めていました。

お母さんが22日目にかよこさんを見つけた時、顔は黒くこげていましたが、かぶっていた防空頭巾で、かく実にかよこさんだとはんだんしました。なぜなら、お母さんが防空頭巾に、血液型や、い書を入れていたのです。

私の防災頭巾には、遺書は入っていません。79年前の人達は、いつ死ぬかわからない不安な気持ちで、毎日過ごしていたと思います。お母さんも、学校にかよこさんを「行かせなければならなかった」という雰囲気があったので、無理に行かせなければ、ならなかったのだと思います。



<分かったこと・感じたこと>

お母さんは、桜が満開になって、うれしいですが、同時に幼い時の  
かわいいかよこさんのことがよみがえり、よけいに悲しくなったと  
思いました。

このお母さんと交流のある、ひばく者でもある三田村さんが、私  
にその桜の話をする度、三田村さんも、あの時のきょうふがよみが  
えり、体も心も痛むと思います。

心のきずはまだ治ってないのに、それでも桜を守ったり、語り続  
けるのは、二度と戦争はせず、三田村さんの世代でつらい思いは終  
わらせたいという気持ちがあると、分かりました。私は、その気持  
をしっかりと受け取りました。



6 日野第八小学校 3年 <sup>まつむらさき</sup> 松村咲希さん

「せんそうでこんなに大変な思いをするんだ。」一年生のとき、学校の授業できいたせんそうの話が私の心に残っていました。はつきりとおぼえていませんが、女の子がかわいそうだったことはおぼえています。今回、せんそうのことやげんしばくだんのことを知るために、長崎へ行きました。

はじめに、さんのう神社に行きました。かいだんを上ったところに、とりいがあったのですが、左半分がばくだんによる強い風でたおされ、右半分の一本だけになってしまっていました。大きくて重いとりいが、たおれてしまったことにびっくりしました。とりいの下にはびんがあり、その中に折りづるが入っていたり、お菓子がそなえてあったりしました。



神社には、大きな  
太いクスノキが二本  
生えていました。ば  
くだんのあと、葉が  
全部かれて落ちたそ



うですが、今ではみどりの葉がたくさんついていました。わたし  
は、つよいばくだんでたえていたことをすごいと思いました。

木の近くには、せんばづるがたくさんありました。だれかが生き  
残ったクスノキへ、平和を  
いのって折ったのかな、と  
思いました。



次に、長崎げんばくしりょ  
うかんに行きました。しりょ  
うかんで心に残ったのは、入  
ってすぐにあった、11時2分  
をさしたとけいでした。げん  
しばくだんが落とされた時間



のまま止まっていた。今でもとけいが残っていてすごいなあと思いました。ほかにも、やけたようふくやこげてまっくろになったおべんとうなどがありました。今、わたしたちが当たり前にごはんを食べていることや、お風呂に入ること、寝ることは、せんそうをしているときは安心してできなかったのだと思います。



平和公園にも行きました。公園の中に、大きな平和きねんぞうが見えました。右手はげんばくのこわさ、左手は世界へいわを表しているそうです。



今でもせんそうをしている国があります。げんしばくだんをもっている国やじっけんをしている国があります。わたしはとてもかなしいと思います。これから、わたしにできることを考え、平和なくらしをつくっていきたいです。

7 三沢中学校

3年

やまぐちそら  
山口奏空さん

1945年8月9日11時2分、広島に続き、原爆を落とされ、甚大な被害を受けた長崎市松山町の平和記念公園で戦争にあった出来事と深い感動を知りました。

まず平和祈念公園の平和祈念像を見に行きました。自分が想像していたよりも大きく写真ではわからない迫力と雰囲気を感じられました。この像の手のポーズには意味が込められていて右手の天を指す指は原爆の脅威を、左手の水平に出した手は平和を意味していることを知りました。



また、原爆の中心ある爆心地には爆心地碑がたてられていて、原爆投下を二度と繰り返さないように後世に伝えていこうという思い



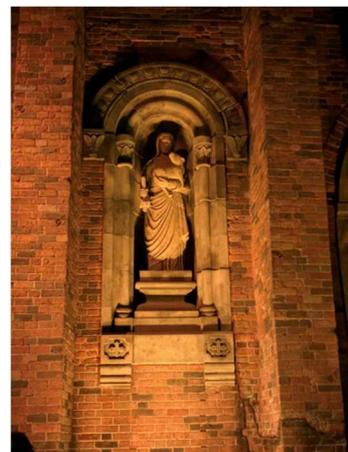
が感じられました。次に、平和の泉に行きました。被爆した人たち

は必死に生きようと叫びながら水を求めたが、死んでいきました。その悲惨な出来事で亡くなった被爆者の霊を捧げたものであり、世界平和を願い作られたと言われていています。平和の泉の清らかな水を見て火災のすすやちりなどの入り混じった黒い水など想像できませんでした。

長崎原爆資料館では被爆した建物や衝撃で曲がった鉄骨など一つ一つに意味が込められていて、特に被爆者が着ていた服が印象に残りました。

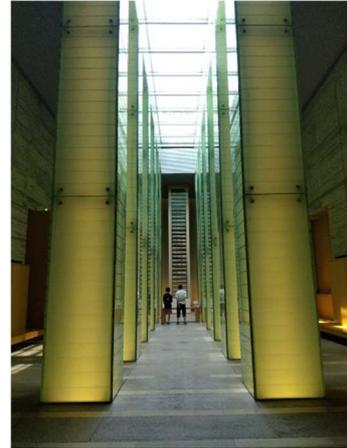
服の生地が破れ、熱風や火で焦げたような跡がありました。中には原型をとどめていないくらいひどい状態で残している服もありました。そんな経験のない自分も痛ましいと思えるくらい当時の様子が鮮明に残っており、改めて悲惨とじました。

最後に原爆死没者追悼平和祈念館に行きました。建物は地下にあり、入口を囲うように水が流れてました。それは地下まで続き様々なエリアまで流れていました。



それは平和の泉と同様、被爆した人々が水を最後まで求めたからだと言われています。

地下なのでところどころ暗い箇所があり、非常に幻想的な空間でした。静かな水の音とともに戦没者追に追悼を捧げる空間が広がっていました。また、両端に光の柱が立っており不思議な場所でした。戦没者の名前が記載され名簿が高く重なっていてその高さ 9m に及びます。原子爆弾の恐ろしさが目に見えたところでした。



他にも原爆、戦争について学んだことはたくさんありました。かつての日本は戦争に勝つことで豊かな生活が来ると考えられていましたが、この敗戦をきっかけに本当の「豊か」がなにかを見つけたと思っています。二度とこの戦争を繰り返さないため



にも平和を後世に伝えていかなければならないのです。日本の平和は一生あってほしいと願っています。

● 派遣者発表《広島》



8 日野第二中学校 2年 うつのみやれな  
宇都宮怜奈さん

私は8月10日に父と広島を訪れ、原爆ドームと平和記念資料館を中心に戦争について学んできました。終戦から79年たった今、戦争を経験していない私に、何ができるのか考えました。

約14万人、この数字は1945年、12月末までに原爆によって亡くなられた方の数を表したものになります。正しい方の人数は未だにわかりませんが、たくさんの方があの日亡くなりました。

記載したのは、原爆の爆心地（緯度・経度）、爆心点（高度）を表した数字になります。爆心地は原爆ドームの南東の方向にある島病院とされ、原爆は、上空約600メートルで爆破されました。考えられないほどの辛さ、苦しみ、悲しみが平和記念資料館に飾られた、写真や絵、遺品の中から感じられました。

北緯 34度 23分 40.68秒  
東経132度 27分 19.93秒  
(誤差半径15メートル)

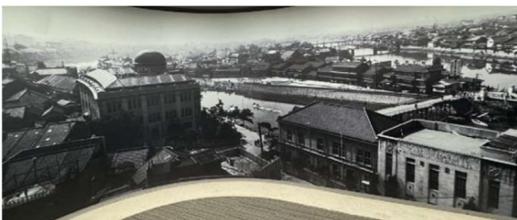
高度 580メートル  
(誤差15メートル)

私は、最初に原爆ドームを訪れ、原爆の威力の恐ろしさを感じました。次に、平和記念公園にある、原爆の子の



像を見てきました。像は、2歳で被爆し、12歳の若さで白血病により、亡くなった佐々木偵子さんが、モデルとなっています。偵子さんが病気を治したいという思いで、折りつづけた折り鶴は、平和の象徴となり、国内外から集まった折り鶴が、原爆の子の像の周りに飾られています。私も家族と一緒にいった730羽ほどの折り鶴を飾ってきました。平和になってほしい、その思いを形にすることができる、折り鶴を自分の手で飾ることができとても嬉しかったです。

次に、平和記念資料館を訪れました。これは原爆が落とされた前後の写真です。平和記念資料館に展示されているものは、当時の悲惨さを物語っているものばかりでした。



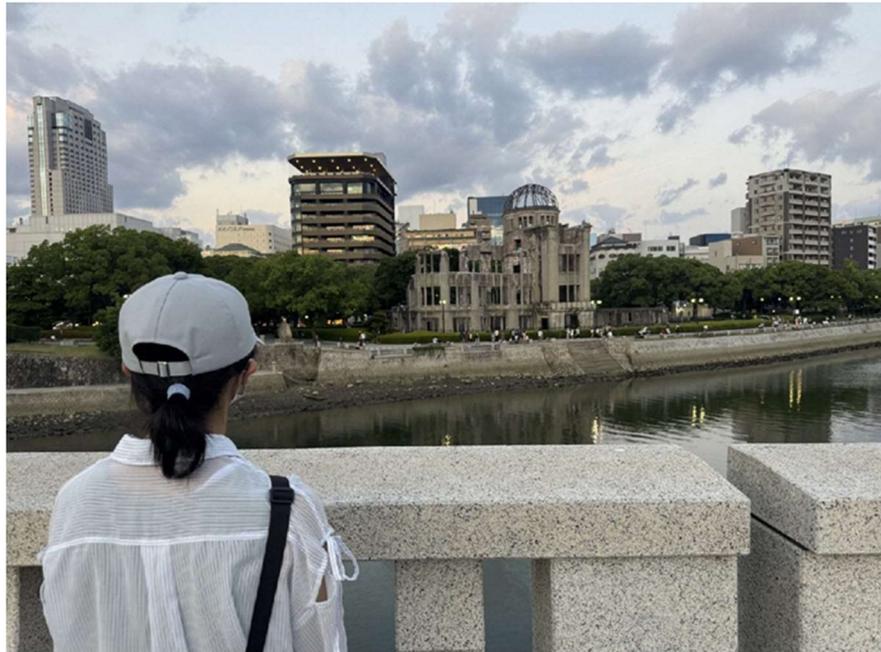
これは実際に触ることができる、原爆が落とされた前後の原爆ドームの模型で



す。被爆者の思い、大切な人を亡くした辛さ、原爆の影響が残っていても生きていかななくてはならない、たくさんの悲しみを感じることができました。

私が小学生の頃、戦争伝承者の方からお話を聞ける機会がありました。この時は、お話の内容が鮮明にイメージ出来ず、戦争がどんなに恐ろしいものかまだその時は、よく理解できませんでした。ですが、実際に原爆ドームや平和記念資料館を訪れ、戦争を間近で触れると、戦争の恐ろしさをよく感じることができました。この時私は、伝承者の方々からのお話を聞くだけでなく、実際に目で見て、感じて、考え、発信していくこれが今の私にできることだと思いました。原爆ドームなどたくさんのものが残っているおかげで、戦争を経験していない私でも、苦しい悲しいと思うことができます。その気持ちを大切に、戦争に触れる機会が少ないからこそ、

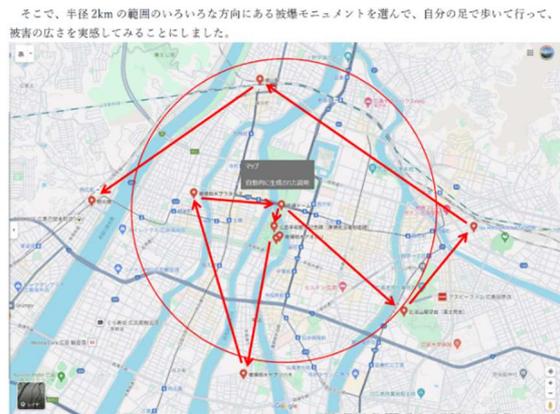
この平和派遣事業をきっかけにし、もっと戦争のことについて学んでいきたいと思いました。



9 日野第二中学校 3年 しょうじはるか  
庄司 遥さん

私は小学生の時に、戦争や平和活動について興味を持ちました。きっかけは、テレビで戦争と人々をテーマにした「はだしのゲン」を見たことと、原爆の被爆者が書いた本「ぼくは満員電車で原爆を浴びた」を読んだことです。戦争の悲惨さ、そして原爆の惨さや後世に与える影響などを知り、原爆やそれを落とすことになった戦争について、戦争の起きる理由や、今を生きている自分と戦争の関係について、関心を持つようになりました。

今、ロシアが核兵器の使用の準備をしているとニュースで報じられています。広島原爆からさらに進化した現代の核兵器を使うことで、戦争を有利に進められる



かもしれませんが、どれだけの人が亡くなり、建物が破壊されるのか、私自身よく理解できていません。多くの本やウェブサイトに写真や動画が載っていますが、核兵器がどの程度の威力を持つものなのか、実感を持って理解できておらず、本物を知りたいと思いました。そこで、実際に広島に行き、平和記念資料館の展示を見て学ぶことから始

め、陸上部である私は、ほぼ壊滅したとされる爆心地から半径 2km の範囲を自分の足で走り、その被害の大きさを感じ、他の人たちにも伝えられたらと思いました。また、ロシアがウクライナで核兵器を使用するかもしれないと報道されていますが、広島と同じことがキーウで起こった場合、どのようなことになってしまうのかも調べてみました。

#### ・原爆の威力

いろいろな資料によると、原爆は半径 2km 以内を全焼させ、ほとんどの建物が倒壊したと書かれています。しかし、文章からでは、熱と爆風が届いた半径 2km の範囲の広さがいまいち理解できません。そこで、半径 2km の範囲のいろいろな方向にある被爆モニュメントを選んで、自分の足で歩いて行って、被害の広さを実感してみることにしました。

#### 訪問の記録

##### 1. ガイドの忍岡妙子（おしおかたえこ）さん

原爆ドームを見ていたところ、偶然にも元小学校教師でガイドの忍岡妙子（おしおかたえこ）さんの説明を聞くことができました。

忍岡さんのお話は、被爆者たちから聞いた本当にあったとは思えないような体験談で想像しがたいものでした。日野市の平和事業で広島に来ていることを伝えると、忍岡さんは被爆体験者の話を伝えるに日野市に行ったことがあると言われました。せっかくだからと、わざわざ被爆地蔵尊の説明もしてくださいました。また、忍岡さん

は、原爆ドームの後ろに回り込んで、爆心の方向とそうでない部分の被害に違いがあることも教えてくださいました。予想外の素敵な出会いで大変勉強になりました。



## 2.平和記念公園

平和記念公園では、原爆の子の像、2023年のG7広島サミットで植樹された被爆樹木のソメイヨシノ、被爆樹木のアオギリ、アオギリ2世



を見てきました。特にアオギリについては、原爆の熱線により、ぐに

やっと溶けて曲がっている部分があり、原爆の威力がここでもよくわかりました。

3.比治山展望台までの  
2km ラン（爆心地から約  
2km）

図書館で事前に調べたところ、「増補ヒロシマの記



録被爆 40 年写真集」の 46 ページに、被災直後の広島町の写真が何枚か掲載されていました。原爆は半径 2km をほぼ壊滅させたと書いてありますが、東にある比治山は爆心地からちょうど 2km のところにあります。この山の頂上から、広島町を見てみることにしました。父と話して、比治山まで行って写真を取るだけだとつまらないので、陸上部の足をいかして、比治山まで走ることにしました。しかし、

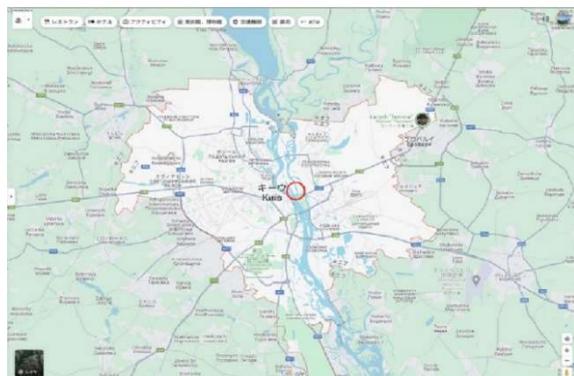
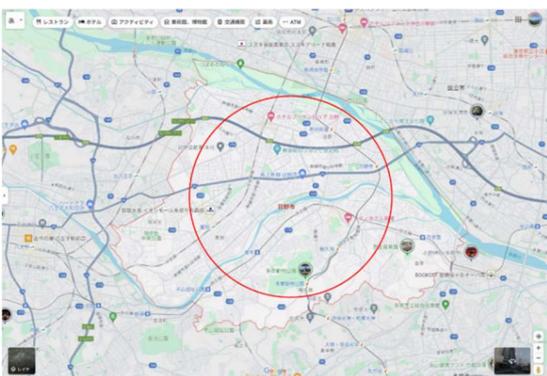
気温が 35 度と高く、信じられないほど暑かったので、走るのはあきらめ、歩くこ



とにしました（歩くのも結構つらかったです）。スタートは原爆ドーム、そこから東に歩き、約 2km 先の比治山の展望台を目指します。比治山は爆心地から約 2km ですが、直線距離ではないので、グーグルマップでは 2.7km と表示されていました。

### 日野市、キーウに原爆が投下された場合

日野市に広島原爆と同じものが投下された場合、日野市のほぼ大部分が壊滅してしまいます。調べてみると、キーウは大きな町で、半径 2km の円は市の一部にしかありません。しかし、現代の核兵器は広島原爆よりはるかに強力なので、もっと大きな半径の円になると思いますし、中心街が被爆した場合、被害は大きなものになると思います。



10 東京ウエストインターナショナルスクール 1年

たていしゅう  
立石 悠さん

僕は、インターナショナルスクールに通っています。ぼくの学校にはいろいろな国の人があります。ママから、昔日本とアメリカは戦争していたと聞きました。でも、僕の親友は横田基地に住んでいるアメリカ人です。戦争のことをもっと知りたいと思いました。そこで、このプロジェクトに参加しました。広島では、平和記念式典に参加しました。とても暑かったけれど、たくさんの人がありました。外国人もたくさん参加していました。難しい話ばかりでよく分からなかったけど、すごく大事なことなのは分かりました。



平和記念資料館にも行きました。たくさんの写真や原爆に関する物を見ました。子どもが乗っていた三輪車がありました。真っ黒になったお弁当箱もありました。ボロボロになった服もありまし



た。僕と同じくらいの年の子どもの持ち物でした。子どももいっぱい死んだことを知りました。

平和記念資料館では、原爆ドームの模型も見ました。こんな建物が、原子爆弾で一瞬でボロボロになったことを知りました。こんなにたくさんの人を殺した原子爆弾を作った人は逮捕されたのか、不思議に思いました。でも、逮捕されていない、と教えてもらいました。



ボランティアの人に、原爆について教えてもらえるツアーにも参加しました。暑かったけれど、色々な場所に連れて行ってくださいました。たくさんのことを教えてもらいました。

本物の原爆ドームも見ました。実際の原爆ドームは大きかったです。原爆で大きな建物がこんなになってしまうんだ、とびっくりしました。



夜は、灯籠流しをしました。灯籠には、自由にメッセージを書いて良いとのことだったので、平和を祈って書きました。たくさんの方が灯籠を流していました。とてもきれいでした。



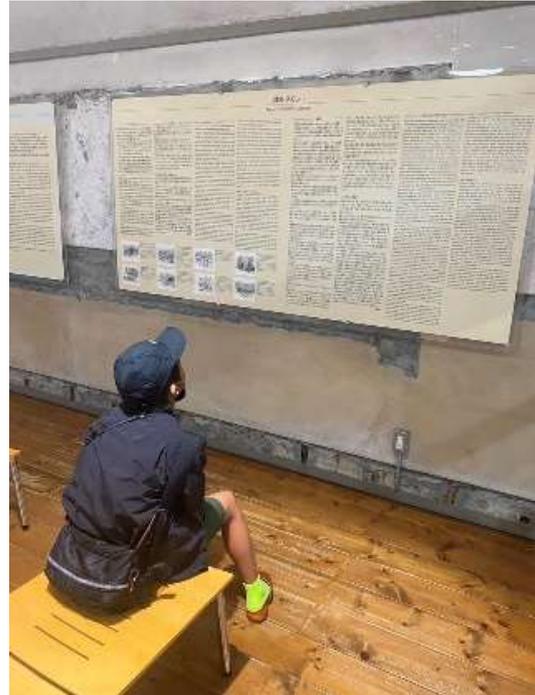
平和のために、僕に何ができるか、ママと考えました。僕は、本当は、まだ何ができるかわかりません。僕はまだ歴史を勉強していません。だから昔あった戦争のことはよくわかりません。でも、今回広島に行ったことで、昔広島に原子爆弾が落とされて、たくさんの方が死んだことはわかりました。これから戦争のことや、核兵器のことをもっと知ろうと思います。

11 日野第五小学校 6年

たはら はるき  
田原 暖希さん

今回の2泊3日の広島への旅を通して、戦争と原爆の恐ろしさを深く感じました。

初日は袋町小学校平和資料館を訪れ、被爆当時の子供たちの貴重な資料を見ました。その中で、被爆の瞬間に亡くなった65人の児童のことを知り、特に生き残った3人の手記が心に残りました。原爆が子供たちの命を一瞬で奪った恐怖を改めて感じました。



二日目には平和記念資料館を訪れ、原爆の被害が広島にどのように広がったのかを展示で学びました。特に、三輪車とかぶとの話が印象的でした。原爆で亡くなった3歳の男の子が、最後まで遊んでいた三輪車と共に埋葬されたという話に、深い悲しみと怒りを感じました。



三日目には、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館や被爆樹木を見学しました。特に、被爆樹木が今も成長し続けている姿に、困難を乗り越える強さを感じました。また、旧日本銀行広島支店が、原爆投下のわずか2日後に営業を再開したことにも驚かされました。



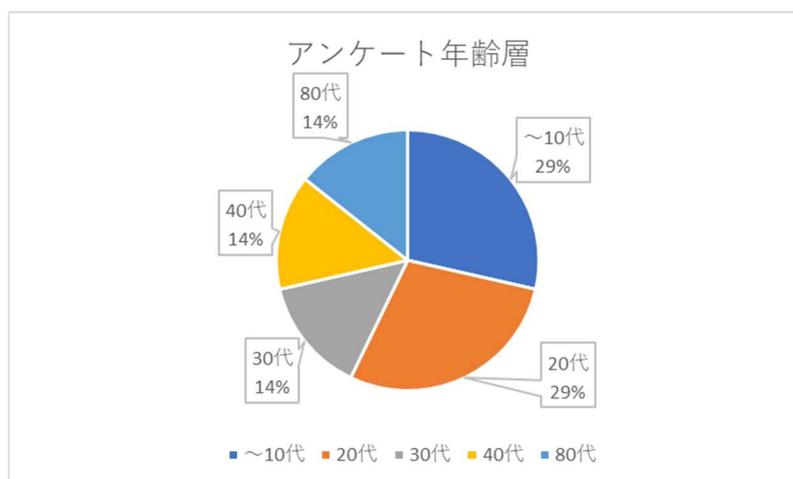
この旅を通じて、原爆の恐ろしさとその影響の大きさを改めて感じました。現在でも世界には多くの核兵器が存在しています。これらをなくすために、広島で学んだことを友達や世界中の人々と共有し、「過ちは繰り返しません」との誓いを広めていくことが大切だと思います。皆さんも、平和な未来を築くために何ができるか一緒に考えていきましょう。



## ❀ 来場者アンケート ❀

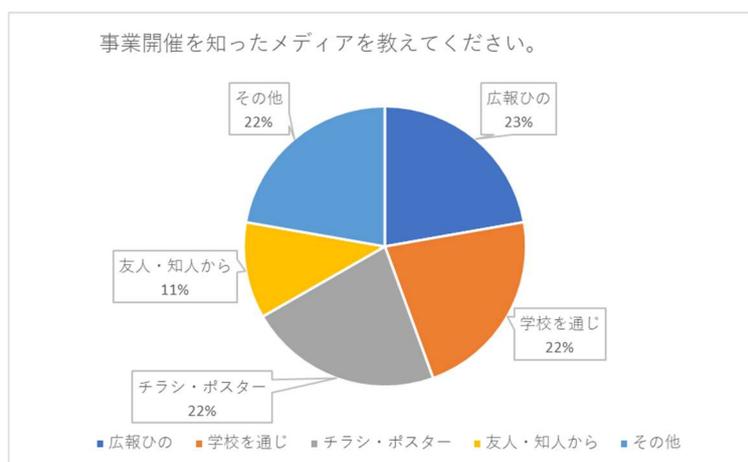
### (1) 御来場者の年齢層

幅広い年代の方のご参加がありました。今後もあらゆる世代の方に来ていただけるようにしていきたいと思えます。



### (2) イベントを知ったメディア

「広報ひの」や学校を通じて配布したチラシなど、皆さま色々なメディアで知ってご参加いただきました。



### (3) 感想

参加された全員の方が「非常によかった」と回答されており、大変好評でした。

自由記載の欄では、「小学生から中学生がそれぞれ率直な言葉で、戦争について伝えていた言葉がどれも胸に響きました。」「子どもたちが貴重な体験をすることは重要なことで、大人の責任でもある。」などのお声をいただきました。

平和派遣事業報告会の感想について教えてください。



■ 非常に良かった

(4) 平和とはどんなことですか？

「物事が暴力ではなく話し合いで解決し、いかなる人でも無残に命を奪われない社会であることです。」「戦争、核兵器がなく、他者に思いやりをもって過ごせる楽しい生活。」など、話し合いや、他者を思うことが大切であるという意見が多く寄せられました。

(5) 平和のために、あなたができること（やろうと思うこと）は何ですか？

「まずは周りの人を大切にする。相手の違いを認める。」  
「身近な人とコミュニケーションをとって話をする。」  
「過去の事実をしっかりと認識して様々な取り組みを次世代に伝えていくことだと考えています。」など、他者を理解していくこと、戦争のあった歴史を広めていくことが大切であるという意見が多く寄せられました。

## 日野市民憲章

昭和 58 年 1 月 1 日制定

わたくしたち日野市民は、多摩川・浅川につづく平野と丘陵の自然環境に恵まれたこのまちを、生活の中のふるさとと考へ、みんなのしあわせのためにこの市民憲章を定めます。

- 1 元気に働き いきいきとして 心ゆたかなまちをつくりましょう
- 1 手をつなぎ ともに健康で 明るいまちをつくりましょう
- 1 自然を守り 緑と清流と太陽の 美しいまちをつくりましょう
- 1 人を大切にし 弱い人にも子どもにも 思いやりのあるまちをつくりましょう
- 1 文化をつちかい うるおいのある 平和なまちをつくりましょう

## 日野市核兵器廃絶・平和都市宣言

昭和 57 年 10 月 8 日議決

巨大な量の核兵器は、米ソ両国の戦略兵器制限交渉などをもつてしても、もはやその拡大を止められない事態となつている。

ひとたび核兵器が使用されることになれば、その結果は全人類とその文明の滅亡であることはいうまでもない。

日野市は、核兵器が地球上から姿を消す日まで、その廃絶を叫び、平和が市民生活の基本であるとの理念のもとに、ここに日野市が核兵器廃絶・平和都市であることを宣言する。



令和 6 年度日野市平和事業平和派遣事業成果報告書＜沖縄・長崎・広島＞

---

令和 6 年 10 月発行

発行日野市企画部平和と人権課

東京都日野市多摩平 2 丁目 9 番地

多摩平の森ふれあい館

電話 (042) 584-2733

---

